

東洋スチレン、より筋肉質な体質に向けコスト低減に拍車

修繕費の見直しなど合理化を一段と徹底

ポリスチレン（P S）国内大手の東洋スチレンは、より筋肉質な体質の構築に向けコストダウンに拍車をかける。具体的には予防保全の徹底による修繕費の見直し、スタートアップにおけるトランジット品の究極のミニマム化、製造プロセスの改良、ユーティリティーコストや変動費の低減——などを推し進める。これまでも要員のミニマム化を含めてコストダウンには相当に力を入れてきた。大きな効果が得られるテーマは少なくなってきたが、可能な限りの合理化を図っていく。

同社は五井、君津、広畑の3工場でP Sを生産。昨年4月に五井の年産4万5,000トンの設備を再稼働させ、生産性の向上による能力増強分と合わせて生産能力を27万8,000トンから33万トンに引き上げた。コストダウンと新規需要創出を重点課題に体質強化に取り組んでいる。五井の4万5,000トン設備の再稼働で、将来に向けての安定供給体制を整えたが、現状では能力に余力がある。余力は新規需要創出のための特殊品の開発などに効果的に活用する考えだ。